学報

2014年１月　Vol.677

「教育推進・学生支援機構」表札上掲式（12月３日）

学長年頭のあいさつ …… 1
「教育推進・学生支援機構」表札上掲式を挙行 …… 2
地域協学センター設置記念式典を開催 …… 3
教育学部附属小中学校「創立60周年記念式典」を開催 …… 4
森学長が第２回日本インドネシア学長会議に参加 …… 5
学位授与 …… 6
産学連携の実施状況 …… 6
外国人研究者の受け入れ …… 7
平成26年度入試募集要項 …… 7
諸会議 …… 8
主要日誌 …… 9
人事異動 …… 《学内限定》10

発行 岐阜大学総合企画部総務課
岐阜市柳戸１番１
電話 058-230-1111（代表）

国立大学法人
岐阜大学
GIFU UNIVERSITY

学長年頭のあいさつ

岐阜大学学長　森　秀樹

あけましておめでとうございます。

まず，年末に入った補正予算および概算要求に関する情報をお知らせ致します。施設関係ではPFI事業である総合研究棟施設整備事業の継続の他，工学系の総合研究棟改修Ⅲが認められています。教育・研究関係では金型人材育成における教育高度化事業などの継続が認められた他，新たに東海圏の6国立大学が連携して防災・減災の取り組みを強力に推進する南海トラフ巨大地震克服のための東海圏減災プロジェクト，南部アジア地域における教育連携コンソーシアムを基盤とする高度専門職業人養成プログラムが認められています。南部アジア地域の高度専門職業人養成プログラムは連合農学によるこれまでの国際交流実績を生かしたプロジェクトで，本学のグローバル化を進める上で重要な役割を果たすものであり，加盟大学との連携の他，南部アジアに関心を有する地域企業との連携により，人材を養成するものであります。

さて，御承知の様に現在国立大学は一段の機能強化が求められています。これは，閣議決定されている「日本再興戦略」や中央教育審議会の提言などに基づくもので，具体的には文部科学省による「国立大学改革プラン」として提示されています。この改革プランでは，大学のガバナンス，グローバル化，教育研究組織，人事給与システムなどの改革および科学技術のイノベーションの促進を謳っています。これらの改革については特に学長の強いリーダーシップも求められています。また，運営費交付金全体の30～40%を改革プランの進んでいる大学を中心に傾斜配分することが明示されています。国のこの様な方針は，一種の社会的選択がなされていると言え，各大学にとっても避けて通れない課題となっています。もとより，本学でも，これらの点については議論を深めていますし，ミッションの再定義でもこうした課題を含んで岐阜大学の特色を明示する努力をして来ているところであります。

しかし，本学がこの様な改革プラニングを本学型として実践していくためには，さらなる具体的で痛みを伴う制度設計が必要であります。今，改革プラニングの岐阜大学バージョンの作成について執行部（役員懇談会）で議論しています。議論には次期学長にも参加して頂いています。私の学長の在任期間は3ヶ月弱でありますが，この問題に全力で取り組みたいと思っています。私は例えば，地域科学部にはグローバル教育，工学部，医学部，応用生物科学部には各々の教育・研究改革と共に，科学技術のイノベーションの推進を望んでいます。教育学部には更に進化する教育貢献の促進をお願いしたいと思っています。教養教育だけでなく，専門教育においても特徴ある学内横断型のカリキュラムの構築が必要になると考えます。私はこの様な組織改革を外圧ではなく，岐阜大学の将来発展のために自主的に進めるものと思っています。それが，本学の伝統の継承に繋がるものと思います。いずれにせよ，岐阜大学構成員のすべてに関わることであり，意思の統一を伴うエネルギーが必要でありますので，どうか宜しくお願い致します。

私共の岐阜大学は素晴らしい大学であると思います。日本における立地条件にも恵まれています。5学部にはそれぞれの使命があり，各種センターを含めて他大学にはない特長を多く有しています。本学のバナーである「学び，究め，貢献する大学」は間違いのないものと思います。本学の他教育機関，行政，産業界との連携を伴って社会貢献する姿勢や知の歴史が地域に，グローバル社会に十分に生きていると信じます。しかしながら，本学が急速に変化しつつある社会構造からの要求に応えるためには，さらなる教育・研究力強化をスピード感を持って進めることが大事であると思います。特に高等教育機関として，岐阜大学は教育を含めて何をもっと提供できるのかを明示する必要があると思います。グローバル化の時代，企業社会は目の色を変えて優秀な学生を採用しようとしていますし，総合大学としての本学は更なる人材教育における質保証を求められていると思います。換言すれば，本学が輩出する人材が如何なる分野においても魅力に富み，社会のリーダーにふさわしい存在にならなければならないと考えます。昨日までを過去とし，大いなる明日を信じて，2014年のスタートを今日皆さんと共に切りたいと思います。

「教育推進・学生支援機構」表札上掲式を挙行

本学は，入学から卒業・修了までの一貫した修学支援体制を構築し，全学的教育の推進及び学生への支援を推進するため，12月 1 日付けで「教育推進・学生支援機構」を設置し，12月 3 日（火）に表札上掲式を挙行した。

式では，森学長から「機構は学内の隅々まで目配りし，学生目線に立った教育を進める覚悟で作った」との挨拶があった後，廣田則夫機構長が機構の概要について説明した。続いて，学生代表の工学部 3 年岩崎誠さんは，「この機構は，学生スタッフがこれまで以上に参画することが期待されているので，岐阜大学の教育改善に学生として積極的に参加したい。また，学部の垣根を取り払って交流を深め，学生同士が互いに切磋琢磨し成長していきたい」と期待を熱く語り，その後，森学長と岩崎さんが表札を掲げた。

本機構は，本学の理念と目標のもとに，大学教育の質の向上及び社会に求められる有為な人材を養成する機能の強化を図るため，全学的教育，教養教育の推進及び学生への支援に関する企画・運営を行う組織であり，本学を「人が育つ場所」と定め，基盤的能力と専門的能力を備え，主体的に活躍できる人材の育成を目指すものである。

7 部門（学生受入部門，教養教育推進部門，学修支援部門，学生生活支援部門，地域教育連携部門，教職課程支援部門，キャリア支援部門）と 1 つのプロジェクトセンターからなる機構の組織は，学生スタッフも交えた対話と協働を重視し，各部門が横断的な連携体制を構築して，「学生の基盤的能力の推進」「教員の教育力改善の推進」「学生の主体的学修の推進」「学生リーダーの育成」等の複合的な課題を遂行していく。

期待を述べる学生代表　岩崎さん

地域協学センター設置記念式典を開催

本学は，12月４日（水）に地域協学センター設置記念式典を開催し，大学関係者をはじめ，行政，NPO関係者ら100名が出席した。本センターは，平成25年度に採択された，文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」を推進するため，地域をより強く志向する全学組織として，12月１日付けで設置されたものである。

式典では，はじめに森学長から「地域協学センターは，地域貢献の中核となる組織で，学部横断的な地域志向に関する教育と研究を推進・支援する。これまで以上に岐阜大学を活用いただきたい」と挨拶があった。続いて，来賓を代表し，秦康之岐阜県環境生活部長から挨拶の後，小見山センター長より，センターの事業紹介があり，「地域との対話を強化し，地域の活性化に貢献したい」と抱負を語った。

最後に，日置敏明郡上市長より，『地域課題の現状と岐阜大学への期待』と題した講演があり，少子高齢化など市の課題を紹介し，「若い担い手の確保につなげたい」と期待を述べられた。

岐阜大学地域協学センターは，本学の教育力及び研究力を活用し，地域志向を持った人材の輩出及び地域が抱える課題解決を図るため，地域との対話や地域と協働で学びを推進し，地域社会の活性化に貢献する企画・運営を行うことを目的としている。

具体的には，岐阜県，岐阜市，郡上市，高山市をはじめとする県内自治体とともに，３つの柱となる「次世代地域リーダー育成プログラム」，「多様な人々が集う「場」の設置・拡充」，「『地域志向学』プロジェクトの推進」の事業を実施する。

本学は複雑で広範化した地域課題の解決に向けて発展的に取り組み，岐阜の「地（知）の拠点」として地域に貢献していく。

森学長の挨拶

日置郡上市長の講演

教育学部附属小中学校「創立60周年記念式典」を開催

12月４日（水），岐阜大学教育学部附属小中学校「創立60周年記念式典」を岐阜市薮田南のヒマラヤアリーナで開催した。本校卒業生で現代美術家の日比野克彦氏が，小中学生1200人と共に即興の集団アート「人間時計」を創り上げた。日比野氏の「附属学校の六十歳を祝って，自分と同じ誕生日の子を見つけ，順番に繋がってみよう」の呼び掛けに応じて，子どもたちは，生まれ月ごとに集まり，生まれた日の順に輪を作った。そして，１月１日生まれの子から順に動き出し，舞台の上で自分の誕生日を叫び，12月31日生まれの子が終わるまで，時を刻むように会場内を回った。

また，その日の午前中には，日比野氏から寄贈された抽象画「on side line off side line 01」の除幕式も行われた。「瀬戸際の一線を制したとき，成功や成長に繋がることに気づいて欲しい」という日比野氏のメッセージのこもった作品が，正面玄関を入った校長室前に飾られた。

記念式典の２日後には，【第二部】として児童会・生徒会が協力して，計画・準備を進めてきた「小中交流活動」を行った。小学校１・６年と中学校３年，小２・５年と中１年，小３・４年と中２年が，それぞれ８人程度のグループを作り，ゲームやクイズを楽しみながら仲を深め，附属学校の一員としての自覚や誇りを感じる機会となった。

「人間時計」

抽象画「on side line off side line 01」の除幕式

「小中交流活動」

森学長が第２回日本インドネシア学長会議に参加

12月12日から12月14日にかけて，森学長及び鈴木国際戦略本部副本部長（連合農学研究科長）が，本学の学術交流協定大学であるインドネシアのジャワ島にあるガジャマダ大学で開催された第２回日本インドネシア学長会議に出席した。

本会議は昨年，本学を含む東海地区の５国立大学法人の共同主催で名古屋大学において第１回目が開催されたもので，第２回目をインドネシアにおいて開催することとなっていたものである。”Best Practice: Building Link Between Industry and University”をテーマに開催された今回は，日本とインドネシア間の学術連携強化について，広範囲にわたる事例発表や議論がなされ，今後も対話を継続することとなった。会議の最後には，森学長が高等教育における質の保証のための大学間連携の重要性と本会議の意義及び今後の発展への期待を述べて会議を締めくくった。翌日の14日には，ガジャマダ大学の学生の案内でエクスカーションが催され，参加者はユネスコ世界遺産として有名なボロブドゥール遺跡を訪れた。

森学長は，スケジュールが過密な中でも，本学の協定大学である各大学長等と積極的に接触を図った。12日，現地到着直後にスブラスマレット大学を訪問して，キャンパス内の主要施設を視察するとともに副学長スタルノ氏等と懇談，その晩の本会議に先立ち催されたレセプションにおいては，ガジャマダ大学の学長プラティクノ氏及びボゴール農科大学の学長スハルディヤント氏と懇談した。翌13日には，スブラスマレット大学の学長カールシディ氏主催の夕食会が設けられ，両学長間の懇談が行われた。その中で，スブラスマレット大学から，南部アジア地域国際連携教育コンソーシアム（IC-GU12）活動の一環としての Lab. Station（岐阜大学海外研究拠点）の１つとして，スブラスマレット大学内スペースの提供が提案され，連合農学研究科で前向きに検討することとなった。両大学の展開が，今後の IC-GU12の枠組みにおける連携の更なる強化を期待させるものとなった。

第２回日本インドネシア学長会議の様子

締めくくりの挨拶（Closing Remarks）をする森学長

学位授与

学位の種類	学位記番号	氏名	学位授与年月日	学位論文名
博士（工学）	工博甲第446号	姫　野　呂　人	H25. 12. 31	半導体 II 型シリコンクラスレート粉末の光学特性および内包ナトリウム評価（Optical properties and sodium content analysis of Type II silicon clathrate）
博士（医学）	医博甲第934号	棚　橋　宏　行	H25. 12. 18	Alterations in axial curvature of the cervical spine with a combination of rotation and extension in the conventional anterior cervical approach（頸椎前方進入体位における伸展回旋複合状態下での頸椎軸方向アライメント変化）
博士（医学）	医博乙第1474号	堀　　暢　英	H25. 12. 18	Assessment of macular function of glaucomatous eyes by multifocal electroretinograms（多局所網膜電図を用いた緑内障眼の黄斑機能評価）

産学連携の実施状況

○共同研究　　（平成25年12月契約分）

部　局　名	研究代表者	企　業　等　名
工　学　部	仲　井　朝　美	（株）IHI
〃	〃	公益財団法人科学技術交流財団
応用生物科学部	中　川　智　行	郡上ものづくりプロジェクト
〃	西　村　眞　一	（株）ユニオン
連合創薬医療情報研究科	赤　尾　幸　博	シーシーアイ（株）
総合情報メディアセンター	村　上　茂　之	公益財団法人岐阜県建設研究センター

○受託研究　　（平成25年12月契約分）

部　局　名	研究代表者	企　業　等　名
医学系研究科	藤　田　廣　志	（独）科学技術振興機構
医学部看護学科	小　林　和　成	草津町
医学部附属病院	吉　田　和　弘	特定非営利活動法人日本がん臨床試験推進機構
〃	〃	特定非営利活動法人疫学臨床試験研究支援機構　（２件）
応用生物科学部	岩　橋　　均	一般社団法人日本化学工業協会
〃	高　須　正　規	関ケ原町
連合獣医学研究科	浅　井　鉄　夫	学校法人酪農学園

外国人研究者の受け入れ

受入部局	氏　　名 （国　名）	所属・職名	期　　間	研　究　題　目
医　学　部	Ibrahim Elsayed Eldesouky Rabia （エジプト）	カフルエルシェイク大学 講師	25. 12. 1 ～ 26. 5. 31	病原微生物の病原因子に関する研究
工　学　部	Khaled Moussad Ibrahim Sultan （エジプト）	カフルエルシェイク大学 講師	25. 12. 1 ～ 26. 6. 30	感染症治療薬の開発に関する研究
〃	周　蜜 （中国）	武漢大学 講師	25. 12. 1 ～ 26. 11. 30	風力発電設備への落雷性状に関する研究
〃	Raafat Hussein Elsayed Elshaer （エジプト）	ザガジグ大学 助教	25. 10. 30 ～ 26. 4. 1	生産スケジューリングに関する研究 Study of Production Scheduling

平成26年度岐阜大学大学院教育学研究科
専門職学位課程（教職大学院）・修士課程学生募集（第２次）

Ⅰ　募集人員

専　　攻	募集人員
教職実践開発専攻	若干人
総合教科教育専攻 （サイエンスコース数学領域，芸術身体表現コース美術領域，保健体育領域を除く）	若干人

Ⅱ　出願期間

専　攻　名	期　　間
教職実践開発専攻 総合教科教育専攻	平成26年１月14日（火）～ 平成26年１月17日（金）

Ⅲ　入試期日

専　攻　名	期　　日
教職実践開発専攻 総合教科教育専攻	平成26年２月８日（土）

Ⅳ　合格者発表

専　攻　名	期　　日
教職実践開発専攻 総合教科教育専攻	平成26年３月６日（木）午前10時

諸会議

◇　第１回授業編成専門委員会
12月２日（月）
（承認事項のみ）

◇　第422回役員会
12月５日（木）
議　題
１．教育職員の人事（地域科学部：助教１名，工学部：准教授１名，応用生物科学部：教授１名）
２．ポイント外教育職員の配置について
３．選択定年制における目標等の裁定について
４．非常勤講師の不祥事について

◇　第183回図書館委員会
12月17日（火）
議　題
１．平成26年度開館日程（案）について
２．平成26年度政策経費事業計画等について

◇　第423回役員会
12月19日（木）
議　題
１．組織評価（平成22～24年度）について
２．教育職員の人事（医学部附属病院：准教授１名）について
３．ポイント外教育職員の配置について
４．特任教員雇用申請について
５．特任教員雇用事前協議について
６．選択定年制における目標等の裁定について
７．非常勤講師の不祥事について

◇　第120回教育研究評議会
12月19日（木）
議　題
１．中期目標・中期計画の変更について

◇　第８回国際戦略本部会議
12月24日（火）
議　題
１．岐阜大学の action-plan について
２．平成26年度政策経費事業計画書について
３．平成25年度目標の進捗状況について

◇　第１回教学委員会
12月24日（火）
議　題
１．教育推進・学生支援機構設置に伴う関連規程等の制定，改正及び廃止について
２．GPA（Grade Point Average）制度の導入について
３．新学務情報システムに係る運用方針の決定方法について
４．学業成績優秀者の表彰について

◇　第424回役員会
12月26日（木）
議　題
１．教育職員の人事（医学部看護学科：助教１名）について
２．中期目標・中期計画の変更について
３．職員給与規則等の一部改正について

主要日誌

月　日	行　事　名
12／2	第1回授業編成専門委員会
3	「教育推進・学生支援機構」表札上掲式
4	地域協学センター設置記念式典
	教育学部附属小中学校「創立60周年記念式典」
5	第422回役員会
7	学生企業展（～8日まで）
11	看護学科・看護学専攻教授会議（医）
	教授会・代議員会（工）
	教授会（メディア）
12	第2回日本インドネシア学長会議（ガジャマダ大学）（～14日まで）
13	代議委員会（連獣）
14	医学系研究科看護学専攻（修士課程）入学試験（第2次）
17	第183回図書館委員会
	研究科委員会（連創）
18	教授会・研究科委員会（教・地）
	医学研究科・医学科教授会議（医）
	臨時看護学科・看護学専攻教授会議（医）
19	第423回役員会
	第120回教育研究評議会
20	代議員会（連農）
24	第8回国際戦略本部会議
	第1回教学委員会
25	教授会（流域・生命）
	応用生物科学研究科入学試験（第2次）（～26日まで）
26	第424回役員会